



## 2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月9日

上場会社名 宮地エンジニアリンググループ株式会社  
コード番号 3431 URL <https://www.miyaji-eng.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青田 重利

問合せ先責任者 (役職名) 企画・管理部長 (氏名) 遠藤 彰信

TEL 03-5649-0111

四半期報告書提出予定日 2022年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	12,370	2.8	835	37.6	919	34.6	593	12.3
2022年3月期第1四半期	12,729	8.0	1,339	17.3	1,407	17.0	677	12.3

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 772百万円 (7.9%) 2022年3月期第1四半期 838百万円 (21.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	87.27	
2022年3月期第1四半期	99.55	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	60,914	38,612	54.5
2022年3月期	61,815	39,091	54.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 33,198百万円 2022年3月期 33,380百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		140.00	140.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		60.00		80.00	140.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	28,000	6.4	2,000	27.4	2,000	29.9	1,300	15.6	191.02
通期	65,000	12.1	5,500	5.3	5,500	8.2	3,000	11.9	440.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	6,919,454 株	2022年3月期	6,919,454 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	114,039 株	2022年3月期	114,039 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	6,805,415 株	2022年3月期1Q	6,805,636 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更しました。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(セグメント情報等) .....	9
3. 補足情報 .....	10
生産、受注及び販売の状況(連結) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症から持ち直しの動きがあったものの、ウクライナ情勢悪化に伴う原油価格の高騰などにより下振れリスクが増しております。今後の先行きについても、これらに加え、円安、原材料価格の更なる高騰などが国内外経済に与える影響を注視していく必要があります。

当社グループの事業環境においては、国内の公共投資は底堅く推移しており、主力である橋梁事業では、新設橋梁の発注量は前年度比で増加の見通しであり、高速道路会社の大規模更新工事も高水準な発注が続くと考えています。

このような環境下、受注高につきましては、大型の新設橋梁、高速道路の拡幅工事などにより215億60百万円（前年同期比14.2%増）となりました。

手持ち工事が予定どおり進捗したものの、売上高につきましては、前年同期比2.8%減の123億70百万円、営業利益は前年同期比37.6%減の8億35百万円、経常利益は前年同期比34.6%減の9億19百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比12.3%減の5億93百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(宮地エンジニアリング)

受注高は、97億87百万円（同17.8%増）となりました。

売上高は、手持ち工事が予定どおり進捗したものの、74億19百万円（同0.7%減）となりました。

営業利益は7億59百万円（同35.4%増）となりました。

(エム・エムブリッジ)

受注高は、117億71百万円（同11.4%増）となりました。

売上高は、手持ち工事が予定どおり進捗したものの、48億11百万円（同11.0%減）となりました。

営業利益は59百万円（同92.5%減）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

資産合計は、前連結会計年度末と比較して9億1百万円減少し、609億14百万円となりました。主な要因は、現金預金が54億14百万円増加、流動資産のその他に含まれる未収入金が10億49百万円増加した一方で、受取手形・完成工事未収入金等が74億45百万円減少したためであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比較して4億22百万円減少し、223億2百万円となりました。主な要因は、未成工事受入金が20億36百万円増加した一方で、支払手形・工事未払金等が18億44百万円減少、未払法人税等が7億66百万円減少したためであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比較して4億78百万円減少し、386億12百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が3億58百万円減少したためであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

わが国経済の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進むなか、景気が持ち直していくことが期待されます。しかしながら、ウクライナ情勢の長期化による不透明感が見られ、原材料価格の上昇や金融資本市場の変動、サプライチェーンの制約等による下振れリスクに十分注意する必要があります。

一方、本年度の国交省予算においては、防災・減災、国土強靱化の推進など国民の安全・安心に係る予算措置が講じられており、大胆な財政出動による内需拡大、経済成長が期待されています。

当社グループの主力である道路橋・鉄道橋などの橋梁事業において、新設橋梁は、厳しい受注競争が続いている一方で、今後10年で4兆円規模の事業が計画されている高速道路会社の大規模更新工事ならびにハイブリッドケーソン・浮体構造物・沈埋函などの沿岸構造物事業、シールドトンネル向けの鋼製セグメント事業、大阪湾岸道路西伸部、名神湾岸連絡線などの大型新設橋梁などは、質的にも量的にも高い技術力と施工能力が求められていることを考えれば、中期的に当社グループが飛躍する事業環境であると考えます。

また、鉄道事業についてはコロナ禍で厳しい事業環境に置かれていますが、首都圏ではターミナル駅の再開発事業や連続立体交差事業、大型跨線橋やJR・私鉄各社の高架化、改築工事などを中心に数多くの計画が予定されており、高難度工事における当社グループのもつ安全・安心な技術力が強みを発揮できるものと考えています。

このような事業環境下において、グループとしての経営管理体制を一層強化し、安定した黒字体質を確固たるものとするように努め、グループの中核である宮地エンジニアリング株式会社、エム・エムブリッジ株式会社と更なる事業発展を図ってまいります。両社においては、国内の鋼橋市場の変化・動向を踏まえ新設橋梁、大規模更新工事、民間工事に経営資源の選択と集中を行い、併せて技術開発やDX（デジタルトランスフォーメーション）に基づく生産性向上に努めるとともに、人材の確保・育成、女性活躍を推進し、働き方改革を進めてまいります。

当社グループは、5月に本年度を初年度とした新中期経営計画(2022~2026年度)にて、今後の事業戦略、資本政策、数値目標、コロナ禍で延期しております千葉工場への設備投資を含めた投資戦略、株主還元拡大に向けた資本戦略、ESG・SDGsへの取組みについて計画しています。

なお、第2四半期累計期間および通期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日公表数値に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	15,979	21,393
受取手形・完成工事未収入金等	23,772	16,326
未成工事支出金	191	269
その他	2,113	3,194
流動資産合計	42,056	41,183
固定資産		
有形固定資産		
土地	7,671	7,671
その他(純額)	5,084	4,908
有形固定資産合計	12,756	12,579
無形固定資産	336	346
投資その他の資産		
投資有価証券	5,358	5,544
その他	1,337	1,289
貸倒引当金	△29	△29
投資その他の資産合計	6,666	6,804
固定資産合計	19,759	19,730
資産合計	61,815	60,914
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	9,810	7,965
1年内返済予定の長期借入金	300	300
未払法人税等	1,094	327
未成工事受入金	2,933	4,970
完成工事補償引当金	598	587
工事損失引当金	1,868	1,879
その他の引当金	791	412
その他	752	1,432
流動負債合計	18,150	17,876
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	1,639	1,639
引当金	212	88
退職給付に係る負債	2,579	2,532
その他	142	164
固定負債合計	4,574	4,425
負債合計	22,724	22,302

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,000	3,000
資本剰余金	3,746	3,746
利益剰余金	21,582	21,223
自己株式	△231	△231
株主資本合計	28,097	27,738
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,100	2,272
土地再評価差額金	3,240	3,240
退職給付に係る調整累計額	△57	△53
その他の包括利益累計額合計	5,282	5,459
非支配株主持分	5,710	5,414
純資産合計	39,091	38,612
負債純資産合計	61,815	60,914

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
完成工事高	12,729	12,370
完成工事原価	10,561	10,625
完成工事総利益	2,168	1,745
販売費及び一般管理費	829	909
営業利益	1,339	835
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	56	81
スクラップ売却益	14	1
その他	13	18
営業外収益合計	85	102
営業外費用		
支払利息	4	0
前受金保証料	11	16
その他	1	1
営業外費用合計	17	18
経常利益	1,407	919
特別損失		
固定資産売却損	21	—
固定資産除却損	2	0
特別損失合計	24	0
税金等調整前四半期純利益	1,383	919
法人税等	445	327
四半期純利益	937	592
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	260	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益	677	593



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	937	592
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△107	172
退職給付に係る調整額	8	7
その他の包括利益合計	△99	179
四半期包括利益	838	772
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	577	770
非支配株主に係る四半期包括利益	261	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

- I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	宮地エンジ ニアリング	エム・エムブ リッジ				
売上高						
外部顧客への売上高	7,470	5,404	1	12,877	△147	12,729
セグメント間の内部 売上高又は振替高	146	—	720	867	△867	—
計	7,617	5,404	722	13,744	△1,015	12,729
セグメント利益	561	786	686	2,034	△695	1,339

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない当社(純粋持株会社)であります。  
2. 調整額の内容は以下のとおりであります。  
(1) 売上高の調整額は、セグメント間取引消去であります。  
(2) セグメント利益の調整額は、セグメント間取引に係る進捗率調整による影響額△10百万円、セグメント間取引消去△649百万円及び全社費用△35百万円であります。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	宮地エンジ ニアリング	エム・エムブ リッジ				
売上高						
外部顧客への売上高	7,419	4,811	1	12,231	138	12,370
セグメント間の内部 売上高又は振替高	496	—	1,076	1,573	△1,573	—
計	7,916	4,811	1,077	13,805	△1,435	12,370
セグメント利益	759	59	1,021	1,841	△1,005	835

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない当社(純粋持株会社)であります。  
2. 調整額の内容は以下のとおりであります。  
(1) 売上高の調整額は、セグメント間取引消去であります。  
(2) セグメント利益の調整額は、セグメント間取引に係る進捗率調整による影響額12百万円、セグメント間取引消去△961百万円及び全社費用△56百万円であります。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況(連結)

## ① 生産の状況

セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)		前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	7,390	59.4	7,441	59.8	33,186	57.8
エム・エムブリッジ	5,197	41.8	4,866	39.1	24,321	42.4
その他	1	0.0	1	0.0	2	0.0
調整額	△147	△1.2	138	1.1	△116	△0.2
合計	12,441	100.0	12,447	100.0	57,394	100.0

## ② 受注の状況

(受注高)

セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)		前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	8,307	44.0	9,787	45.4	38,986	60.9
エム・エムブリッジ	10,565	56.0	11,771	54.6	24,984	39.1
その他	1	0.0	1	0.0	2	0.0
合計	18,874	100.0	21,560	100.0	63,974	100.0

(受注残高)

セグメントの名称	前第1四半期連結会計期間末 (2021年6月30日)		当第1四半期連結会計期間末 (2022年6月30日)		前連結会計年度末 (2022年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	48,141	51.0	55,365	53.5	52,996	56.2
エム・エムブリッジ	46,368	49.1	48,331	46.7	41,371	43.9
その他	—	—	—	—	—	—
調整額	△50	△0.1	△219	△0.2	△81	△0.1
合計	94,460	100.0	103,476	100.0	94,286	100.0

## ③ 販売の状況

セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)		前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	7,470	58.7	7,419	60.0	33,294	57.4
エム・エムブリッジ	5,404	42.5	4,811	38.9	24,821	42.8
その他	1	0.0	1	0.0	2	0.0
調整額	△147	△1.2	138	1.1	△116	△0.2
合計	12,729	100.0	12,370	100.0	58,002	100.0